私のドクター・ライフ

確かなキャリアと豊かなプライベートを両立させている女医の方々は、多くの25ans読者にとって憧れの存在。そんな「女医ブーム」をけん引してきたこの4人に、ドクターとしての情熱と本音をお聞かせいただきました。

開業して14年、病院は娘のような存在です

美容皮膚科・内科医
衣理クリニック表参道 院長
片桐衣理さん

父も兄も医療従事者でしたが、医師を目指したのは、高校1年のとき。きっかけはある出会いでした。たまたま、従姉妹の友人の女医のクリニックに行ったところ、なんと白衣ではなく花柄の私服でふわっと髪を下して診察していました。当時は白衣にすっぴんにひっつめ髪にメガネが女医の制服のような時代…。理由を聞くと、彼女は小児科医で、聴診器を手で温めながら、子ども達が緊張しないようにと。その姿勢に感動し、英文科志望から一変、一浪し医学部へ進みました。

今でこそ定番ワード〝アンチエイジング〟ですが、私はもともと健康と美しさを兼ね備えた〝ハッピーエイジング〟が目標でした。そこで大学では内科を専攻。内科医として得た臨床経験を生かし、患者様の求める美しさに内外からサポートする病院を開業。今年で14年になります。

この病院は、私にとって娘のようなもの。実の娘とは姉妹のような存在(笑)。院長の仕事は、産みの苦しさ、育っていく愛おしさなど、重なる部分が多いですね。多忙な日々ですが、自分を一番の秘書だと思い、セルフマネージメントを怠らないのが使命です。

片桐衣理先生への5つの質問

Q1 あなたにとって医師という仕事とは?
A **患者様のベストライフのためのパートナー。**
Q2 女性医師に必要な資質を3つ挙げるなら?
A **気配り・センス・努力に裏打ちされた技術。**
Q3 最も大切にしているモノやコトは?
A **言霊。患者様との空間。**
Q4 座右の銘は?
A **信じ続ければ必ず叶う。**
Q5 趣味は?
A **仕事。でも、実は…洗濯オタクでもあります!**

1 表参道へ移転した開院当初のスナップ。2 自ら開発し、クリニックでも使用しているスキンケア「イースペシャル」と、健康維持に毎日飲んでいるサプリメント。3 習い事であるワインの先生、奥山久美子さんと、仲間と共に。

Profile

かたぎり・えり●日本抗加齢医学会評議員。東邦大学内科医局勤務、都内美容クリニック総合統括院長を経て、2001年に開業。ドクターズコスメ「イースペシャル」の開発も行う。

衣理クリニック表参道
東京都港区北青山3-5-30　入来ビル4F・5F　☎03-5786-1155　診10時～19時　休水・日曜
http://www.eri-clinic.com/

目指すは生涯現役ドクター。健康管理は怠りません

美容皮膚科・美容内科医
あおいクリニック銀座 院長
中野あおいさん

Profile